

# SAP ERP標準保守終了への戦略的対応

## DX推進に向けた構想策定支援

デジタル化とSAP ERPの標準保守終了への対応が喫緊の課題となっている企業に対して、従来の目的である業務標準化・効率化に加え、事業戦略・デジタル戦略の実現を視野に入れたシンプルなERP導入を実現するための構想立案を支援します。

### シンプルなERP導入が攻めのDXを実現する

SAP ERPの標準保守終了への対応として、多くのSAPユーザー企業が、バージョンアップ（現行業務重視）、またはSAP S/4 HANAの新規導入（業務改革前提）を検討していると想定されます。しかし、IT・SAPエンジニアの人材不足、1~3年は必要となる導入期間、および経営層からのデジタルトランスフォーメーション（DX）の要請を併せて考慮すると、この機会を業務とシステムの革新のチャンスと捉えて、あるべき姿を前提とした構想立案に着手することが望まれます。

事業の統廃合や、グループ会社・グローバル子会社への展開の際のスピードアップ、コスト削減やレジリエンス能力の向上を実現するためには、ERPをシンプルに導入することが有効な手段となります。

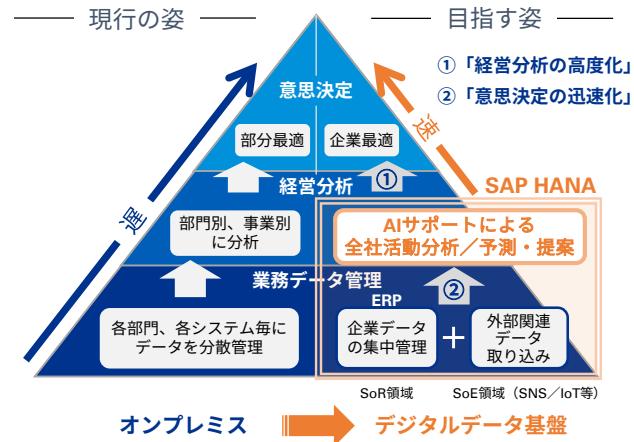
シンプルなERPの導入により、まずデータの標準化・構造化および、アドオンの最小化を実現し、ビジネスで有効活用できるデータ基盤を作ることが重要です。さらにAIなどの新技術を活用することで、ビジネスの新たな価値を創出し、DXの実現が可能となります。

### シンプルなERPがデジタルデータ基盤の中核を担う

#### シンプルなERPとポイントソリューションの組合せによる基幹システムの構成イメージ



#### データ活用による企業競争力強化のためのデジタルデータ基盤のイメージ



企業の競争力を最大化するためには、顧客やマーケットの変化をリアルタイムに捉え、顧客の価値体験の向上を長期に渡って実現する施策を、いかに早く、繰り返し実行していくかがポイントになります。そこで求められるのは、ERPその他の基幹システムや設備のセンサーデータ等の企業データと、SNSや顧客が使用中の製品の稼働データなどを含めた、デジタル技術を活用した「経営分析の高度化」と「意思決定の迅速化」への取組みです。

特に、ERPは全社で統一された企業データのソースであることから、デジタルデータ基盤の中心的役割を担います。基幹システムが保有しているデータにSNS等の外部データを組み合わせることで、新たなビジネス価値の創造につなげることができます。データを標準化し、アドオン開発を極力とどめたシンプルなERPの導入が、戦略的取組みのスタートとなります。

